

# G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

アダムスキーにより伝えられた「生命の科学」の真価が、人々に広く理解されない、あるいは、生かされないと言われてきました。これは、嘆かわしいことではありますが事実です。これらのことを見るに、地球上では、真理が広がらないという、宇宙においては、極めて異例な特性があるように感じています。

紀元前の地球上に出現した偉大な指導者である仏陀、孔子、ソクラテス、あるいは紀元後のイエスなども、発言の真意は理解されていないのではないかと思います。

例えば、今日の日本に見る仏教は、仏陀に起因しているとされますが、実際には、インドや中国を経て、かなり変形し、日本においても色々なものが付加されてきています。従って、ブッタの伝えたこととは、直接的には異なるものです。

仏陀が、直接話した内容に近いとされるのは、今日、「ダンマパダ」と「スッタパニータ」という書として残っているものです。このうち「ダンマパダ」は、真理の言葉と訳されていますが、極めて示唆に富む内容を平易な言葉で語っています。それが難しく解釈され尾ひれを付けることで、人々に理解されにくくなったと考えられます。

「ダンマパダ」（今枝由郎訳）で驚くのは、短編の中で「感覚器官のコントロール」と訳される言葉が3回、「感覚器官を静め」1回、「眼、耳、鼻、舌を制するのは善い」1回と、「生命の科学」と同じことを強調しているのです。

仏陀の伝えた事柄が、「生命の科学」に類することは承知していましたが、これほど近い言葉で語っているとは思いませんでした。

仏陀は、「人としてどのように生きればよいのか。」について、人々に話してきたわけですが、正に、「生命の科学」の基本的な部分を伝えていいると見ることができます。

このように解釈することで、仏陀もスペース・プログラムの一環として、地球上に転生して来た一人なのだと知ることができるようです。

## “言葉に注目”

### < 好き嫌いを克服しようとしないうかざり・・・ >

G・アダムスキー著『UFOの謎』（中央アート出版社）

まず、アダムスキーは、皮膚の色や宗教が異なることでの好き嫌いや、自分が優位であると感じることを好むなど、この種の好き嫌いが人類を分裂させていると言っています。そして、金星にも皮膚の色や知的レベル、職業にも差があるということですが、地球のような分裂状態は存在しないということです。

アダムスキーは、好き嫌いを克服しなければだめだと言っています。好きとか嫌いというのは、個人の自由のように思われるところですが、明らかに四つの感覚器官に振り回されている状態です。その判断を中心に生きてしまうと、良き生き方ができないばかりか、決して真理へは到達できないでしょう。私たちとしては、肝に銘じなくてはなりません。

## 「生命の科学」学習のポイントPart86

今回は、レクチャー8 『宇宙の一体性』の9回目、「人間は本来何物も所有しない」です。

初めに、「しかしこの大きな報いを得るためには、われわれの現在の家（肉体や惑星）を改造して、そのなかに万人の“父”を入れなければなりません。」と言っています。

この書き出しの言葉、“報いを得る”は、前の項の後半に、人の進歩による変化等について書いていることから、このように表現しているものです。そのためには、肉体を改造する必要があるということです。そうしなければ、誰もが認める“父”が自己に入れれないと言っています。このあたりは、キリスト教徒に対して意識的に表現しているようです。

続けて、「そしてわれわれはその子として“父”に従い、“父”こそあらゆる知識であり、永遠を通じてのわれわれの意識であることを知るのです。」と言っています。

つまり、“父”として表現しているものは、“意識”であるということです。

そして、本項の中心である次の言葉につながります。「われわれが肉体または惑星と呼んでいる現在の家または宇宙の多くの惑星でさえも肉体人間に属するものではありません。」ということです。更に、人間は、それらを自分のものと主張するでしょうが、それは、無知と“父”からの分離によるものとしています。

その理由として、こうした物は人間から去って行くという事実を伝えています。これは、いかんともしがたい事実です。つまり、人間は、一時的にこの場に存在し、その時の流れの中で多くのものと出会い、そして所有しますが、それが過ぎ去り肉体を地に残すときが来るのです。その間に去って行く物もあるでしょうし、自分が去るまで存在しているものもあるでしょう。しかし、いずれにせよ、何物も所有していないということがわかるということです。

### 宇宙に“生きる”

<名言格言編86>

“年寄りの冷や水（としよりのひやみず）”

昔は、よく年寄りが体に良くない冷たい水を飲んだり浴びたりすることから、老人が年にふさわしくない危険なことや無茶なことをするのを冷やかしたり戒めたりする言葉です。今でも、年配の人などは、このような言葉を使うことがあります。



Q：最近の宇宙探査は？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：木星探査機ジュノーが、木星の探査を切り上げガリレオ衛星（イオ、エウロパ、ガニメデ、カリスト）の探査に切り替えました。また、最近、NASA は2026年に土星の衛星タイタンを探査する計画を打ち出したようです。今後は、惑星より衛星探査が増えるようです。

### 書物紹介

『卑弥呼は二人いた』 布施 泰和 著 河出書房新社

本書は、「正統竹内文書」（竹内睦奏 著）が示す日本古代史をベースに推論を展開しているものです。著者は、神話を作り話として見るのではなく、わけあって隠語としているものの実際の人間が関係していると推論しています。邪馬台国は、遷都したので奈良県と九州南部の両方にあつたとしています。また、卑弥呼と見られる女性が、叔母と姪の二人いたと推察しています。日本とシュメールの関係など、スケールも大きくなかなか興味の持てる書物です。

### 学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2021年5月1日（土）は、諸般の事情で中止いたします。今のところ、台東区民会館で行う予定はありません。今後、会場が空き次第、予定したいと思います。現在、会合に代わり、ZOOMでの学習会を開催しています。詳しくは、HPを確認ください。

### 【編集後記】

他の惑星に知的生命体がいることは、恐らく多くの国の上層部で知られています。実は、アダムスキーは知られた存在なのだと思います。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

### G・アダムスキー通信 <第86号>

発行日 令和3年 3月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 （禁無断転載）



# G・アダムスキー通信

**<発行の趣旨>** 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

犬や猫などの身近な動物を見ていると、明らかに心があることがわかります。そのことから、個体により性格が異なっているようです。更に霊長類になると、遊びやいたずらなども行っていて、心の幅が広いことを感じます。逆に、鳥類や昆虫などになると、心の幅が狭くなり、その部分が読みにくくなりますが、確かに個性は存在するようです。

このような動物が、更に心を広げて自己主張を繰り返すようになったらどうでしょう。本来群れで行動すべきところが、ドクターXの大門未知子のように群れを嫌ったり、ペアーとならなかつたり、群れでの役割を行わないなど、人間的には、個性が豊かになるとします。その結果は、種の減少や崩壊、そして絶滅へつながることでしょう。その段階で、その種の動物は、自然に反していることになるでしょう。

しかし、動物にも心がありながら決してこのようなことにはならないのです。今日、絶滅する種は、大変な数にのぼりますが、種の身勝手により絶滅したものは確認されていません。つまり、自然界の動物は、心を持ちながらも、自らの役割を放棄することなく全うし、それ以外の理由により絶滅していると考えられます。

一方人間は、知恵を使って多くのものを破壊し、自由と言いながら自然に反する行動や、他者を傷つける行動を沢山しているのが現実です。

動物の心と人間の心では、何が違うのでしょうか？ 自然界での動物は、進歩の程度に応じた心をもって、喜怒哀楽と思われる表情を示しながらも、決して自然の掟に逆らわないということだと思われます。それは、自らの種を滅ぼしてしまうことを知っているからだと思います。

これらの動物より進歩していると信じている人間は、自然の掟の一線を越えてしまうと考えられます。自由度の大きいことの裏返しのようにも見えますが、そうではなく、自然の掟の意味を理解できないのだと思われます。人間の個性の表出が悪いのではなく、“自然の掟、自然なのか不自然（行き過ぎ）なのか、そのことを理解できる存在にならなくてはならないでしょう。

## “言葉に注目”

< 私の生き方を改善し、変えるには、どこから始めれば・・・ >

G・アダムスキー著『UFO問答100』（中央アート出版社）

この質問に対し、アダムスキーは次のように答えています。

「今すぐあなた自身の想念と日常の行動から始めなさい。・・・あなたの想念を観察して、それが本当に自分の受け入れようとしているタイプの想念であるかどうかを調べなさい。もし違ふようならば、それをあなたの高次の憧れの想念と同じになるようにかえなさい。奴隷になってはいけません。・・・」

ようするに、自分を客観視して憧れの方向へ変えていくということです。質問者は、変える意志を持っています。このような人は、自己の想念を客観的に観察し、良き方向を探ることができるはずで、問題は、その意志を持たない人が、地球上の大多数だということでしょう。

## 「生命の科学」学習のポイントPart87

今回は、レクチャー8 『宇宙の一体性』の10回目、「しかし意識を所有する」です。

前回は、「人間は本来何物も所有しない」という内容でした。それに対して、しかし、意識を所有するというものです。そこで、「しかし人間から絶対に逃げ去らないものが一つあります。それはこれまで心が気づくことのできなかった“意識”です」。つまり、“意識”は、人間から永遠に離れることなく存在しているということです。結局、気づかないだけで人間と意識は一体なのです。そこで、良く言われるような“意識と一体”になることを目指すというより、「意識を感じられる自己を実現する！」と言ったほうが正解に近いと思います。

続けて、「意識こそ万物の背後にある“宇宙の英知”なのです」と書いています。意識は、宇宙より広いすべてですから、万物の背後にあると言えますが、ここでは、宇宙の英知と言っています。意識は、英知的部分はもちろんのこと、実際にはパワー的部分を有しているのです。

そして、「最近科学者は、いかなる構造物の細胞（原子）といえども、それはその構造物の英知であることをついに認めました。」と書いています。アダムスキーは、いわゆる無生物さえもその構成要素を“細胞”という表現で呼んでいます。それは、生きていたという意味合いが大きいのだと思われます。そして、それらは、英知を有していると教えています。

続く、「色による実験法」では、雑誌“ライフ”の1964年6月12日号に掲載された、指による色当てを引き合いに出します。これをアダムスキーは、「フィーリングまたは触覚の力を発揮させるのに役立ちます。」と書いています。そして、正しい色を言いあてた場合は、そのときのフィーリングをそのまま記憶すると、的中率を増大させ、また多くの分野で役立つと説明しています。そして最後に、このフィーリングや波動は“意識”であると教えています。

### 宇宙に“生きる”

<名言格言編87>

“心は捉え難く、軽々しく欲望のままに動き回る”

これは、仏陀の言葉で、ダンマパタ第三章「心」に収録された一節。続いて、「この心を制御するのは善い事である。制御された心は、幸せをもたらす。」としています。これは、心の身勝手さと、四官のコントロールを伝えている「生命の科学」と同じことなのです。



Q：アメリカ政府がUFOを公表？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：去る3月25日、「アメリカ政府、UFOについての報告書をまもなく公開か … 元国家情報長官が証言『目撃例はもっとたくさんある』」との記事が載りました。これについては、HPに掲載しましたが、やや進展があるでしょうが、あまり期待はできないと見ています。

### 書物紹介

『君もこの世に生まれ変わってきた 覚者・本山博が伝えた新しい生き方』 宮崎 貞行 著 明窓出版

本書のタイトルにある本山博氏は、超常能力を科学的に研究した学者であり、宮司、そして自らが能力者として知られた人で、カリフォルニア州に人間科学大学院を設立した超心理学の先人でもあります。人間には魂があって生まれ変わりがあり、個人のカルマの他、家、国、土地、地球にもカルマがある。宗教は科学の根底にあり、宗教の統一は世界平和に欠かせないとし、また、透視力等を科学的に考察して、人間本来の生き方を伝えるなど肯定できる内容です。

### 学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2021年5月1日（土）は、諸般の事情で中止いたします。2022年1月8日（土）。2021年の予定はありません。今後、会場が空き次第、予定したいと思います。現在、会合に代わり、ZOOMでの学習会を開催しています。詳しくは、HPをご確認ください。

### 【編集後記】

コロナの拡大第4派。諸国が苦しい中、オリンピックは意味があるでしょうか？ しかし、夏を過ぎれば少し落ち着くと期待しています。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

### G・アダムスキー通信 <第87号>

発行日 令和3年 5月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡 邊 克 明 （禁無断転載）



# G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

人は、他人に対してとんでもないほどの“恨み”を持つことがあります。それは、自分や家族または、自分の職場等が、他者からの関与によって破壊されたような場合。あるいは、自分の他者に対する、やっかみ、嫉妬、羨望などから恨みを持つようになることもあるでしょう。

先の例のように他者から傷つけられた場合は、恨んでも当然と多くの人々から肯定されるかもしれません。一方、自分の嫉妬心などから恨んでいる場合は、他者からの肯定は得られないものです。また、他者からの破棄には、故意によるものと過失によるものの違いがあり、そのことを加害者が反省している場合と、そうでない場合があるでしょう。

いずれにせよ、他者を恨むということは、憎み、怒り、口惜しさ、悲しみ、嫉妬などの気持ちが重なって、いずれは復讐心につながることでしょう。これらの感情は、残念ながら自分及び他人に対して、最も不要なものであり、自分ばかりか周囲の人々の細胞を傷つけ、因果につながり、転生にも関係してくるものです。

地球上では、恨みの念が因果として継続し、それが、出生、病気、事故、人々の不仲など、多くの不幸の原因となっているように思えてなりません。宇宙の意識には、恨みの念はありませんが、人間が肉体を持つことで、その念を生みだすことができ、他者に悪い影響を与え、何世代にもわたって継続することができます。

これこそが、“悪魔”の正体なのです。これらを断ち切ることを、仏陀は伝えたと考えられますが、それらは理解されることなく、今日に至っているようです。

私たちは、どのようなことがあっても、他人を“許す”ということが出来なくてはなりません。これは、正しく意識の上に乗って自己を磨いていないとできないことです。なぜなら、この行為は、意識を100パーセント信頼して成立するものだからです。

イエスは、十字架上で、人々を恨まず、逆に人々への許しを神に祈っています。地球が、新しい地平線へ向かうのであれば、このことを理解し、実践できなくてはならないと思います。

## “言葉に注目”

### < これこそまさしく地球人が数千年間やってきたことなのです >

G・アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

これは、アダムスキーが土星の母船に乗船した際の会話にあるものです。この言葉の前に、アダムスキーに質問しています。仮に2人の息子がいて、兄弟を殺そうと決意して、ひざまずいて祝福を乞うた場合、あなたは聞き入れるか・・・というものです。アダムスキーは、「もちろん聞きいれません!」と答えると、スペースブラザーより表題のようなことを言われるのです。

簡単な言ですが重い言葉です。これらは地球人がいまだに行っていることであり、あまり意識できない国もあるでしょうが、残念ながら事実なのです。地球上の争いのすべては、こうした兄弟同士の戦いであることを再認識する必要があります。今日でも、大量破壊兵器の開発に余念のない事実は、否定しようもありませんし、簡単に改善のしようもないでしょう。

## 「生命の科学」学習のポイントPart88

今回は、レクチャー8 『宇宙の一体性』の11回目、「色による実験法」です。

ここでは、雑誌「ライフ」の1964年6月12日号の記事を取り上げています。これは、人間の成長にとってまったく基本的な発達の一つの面を扱っているの、素晴らしい発見と言っています。この二つとは、「触覚」と「記憶」ということです。

取り上げた内容は、被験者を目隠ししたまま、異なる色の上に三本の指を置かせて、色から放射される波動によって、各色の名称を当てさせることができるというものです。これは、フィーリングまたは触覚の力を発達させるのに役立つと言っています。フィーリングは、波動（感知）であり、「肉体の心に自らを印す」、つまり、印象づけるということです。

この実験は、三色の異なる色に指を一本ずつ三本乗せるのか、それとも三本の指を一色の色に乗せて、これを何色か行うのか、やや判別しかねるところがあります。

しかし、後者でないと高度になるため、はじめは色あてに三本の指で行う方がよいと思います。この方法によって、前段に書いてある基本的な発達の一つの面である、「触覚」を発達させることができるということです。

もう一つの面は、「記憶」ですが、これについては、次のように書いています。

「あなたがこの実験で正しく色を言いあてることができた場合は、そのときのフィーリングをそのまま記憶するように心がけてください。」こうすると的中率を増大させることができるということです。これは、大変重要なことですから覚えておいてください。

この二つは、人間の発達につながるということですが、現実界の人間は、まったく無視をして生きています。しかしSPは、この辺を重視して、成長しているということが推測されます。

### 宇宙に“生きる”

＜名言格言編88＞

“名を取るより得を取れ”

これは、名声よりも実際の利益をねらって得を取るようにせよということです。ここでは、損得の得なので現実的な利益です。名声は、お金にならないので、実益を選ぶことを教えています。しかし、金銭的に満足すると、今度は名声を求めるようになるようです。



Q：アダムスキーはもう古い？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：時々、そう言われます。しかし、アダムスキーの体験や言説が証明されるのはこれからです。まだまだ、時代はアダムスキーの伝えた事柄に追いついていません。アダムスキーの言説は、古いのではなく、先へ行きすぎているのです。そろそろ、時代が追いつくことでしょう。

### 書物紹介

『量子物理学の発見』（ヒッグス粒子の先までの物語） レオン・レーダーマン他 著 文藝春秋

著書のレーダーマンは、ノーベル物理学賞を受賞した実験物理学者。アメリカのフェルミ研究所の加速器を使い極小の世界を追い求めた実験を基に、この新しい物理学の誕生から、現在、そして未来について語っています。素粒子の種類により、回転していたり、ジグザグに動きながら電荷を放出と受け取りを継続するものなど色々あるようです。今後は、特殊な装置のプロジェクトXを使って、新たな発見が期待できると分かりやすく解説しているものです。

### 学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2022年1月8日（土）。2021年の予定は、今のところありません。今後、会場が空き次第、予定したいと思います。現在、会合に代わり、ZOOMでの学習会を開催しています。詳しくは、HPをご確認ください。

### 【編集後記】

今回は、計画どおり作成できました。皆さんにとって、有意義な内容であることを願っています。コロナに負けるな！

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

### G・アダムスキー通信 <第88号>

発行日 令和3年 7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 （禁無断転載）



# G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

「この宇宙のどこかに、“知恵の蔵（真理の蔵）”、ともいうべき場所があって、私は自分でも気づかないうちに、その蔵に蓄えられた“叡知”を、新しい発想やひらめきとして、そのつど引き出してきた。汲めども尽きない“叡知の井戸”、それは宇宙、または神が蔵している普通の真理のようなもので、その叡知を授けられたことで、人類は技術を進歩させ、文明を発展させることができた。」そして、「人生の目的は心を高めること、魂を磨くこと」とも言っています。

これは、アダムスキーが、どこかで語った言葉ではありません。京都セラミック株式会社を設立し、KDDI（第二電電企画株式会社）を設立した、稲盛和夫さんの言葉です。

稲盛さんは、2010年2月、2兆3000億円の負債を抱え、事実上倒産していた日本航空（JAL）の再建を政府から託され、わずか2年8か月で再上場を果たすという奇跡を演じました。1984年には、私財を投じて稲盛財団を設立し理事長に就任。同時に国際賞「京都賞」を設立し、毎年11月に人類社会の進歩発展に功績のあった人を顕彰しています。

受賞者の中には、山中伸弥氏2010年「バイオテクノロジー及びメディカルテクノロジー」受賞（2012年ノーベル医学・生理学賞）や、本庶佑氏2016年「生命科学」受賞（2018年ノーベル医学・生理学賞）と、それぞれノーベル賞を受賞する2年前に授与しています。

また、決して偉ぶらず庶民的であり、会社運営につまずく多くの経営者を指導し、支援している実績も相当なものです。

今話題の渋沢栄一さんは、私欲を捨て日本発展のための資本主義の基礎を築きました。その渋沢さんの薫陶を受けた経営者や、影響を受けた人々は少なくありません。稲盛和夫さんは、その方々と同じように、私欲を持たずに社会の発展に貢献する偉大な一人であると思います。

冒頭のように、宇宙の叡知の井戸からひらめきを得て成功を収めたというところは、アダムスキーの教えを完全に肯定するとともに、その教えを活かすことができれば、誰でも人類に寄与することができるという証明したようなものです。実に、素晴らしいことです。

## “言葉に注目”

< このような想念は本質的に真実のテレパシーなのであって・・・ >

G・アダムスキー著『UFOの謎』（中央アート出版社）

この表題の後に「本当の知的な発達のために必要な体験と知識を作り上げるのに有用である。」となっています。この前段では、人々が日常の雑用の中で心に通過する想念の多くは、「宇宙の知識の貯蔵庫から直接に価値ある情報をもたらすことがある。」と書いています。

つまり、人の心に通過する想念の多くは、宇宙の貯蔵庫からくるものであり、本当の知的な発達のために必要な知識や体験を作り上げる、ということです。また、このような想念に同調出来る人は、建設的な経路へ向かうと言っています。冒頭語の稲盛さんが証明しています。

ここで重要なのは、人間が真に進歩発展することができるのは、宇宙の貯蔵庫からの想念に同調できるからであると想定されることです。ここは、大変重要なところでしょう。

## 「生命の科学」学習のポイントPart89

今回は、レクチャー9『宇宙的細胞と肉体細胞の活動』の「呼びかけあう細胞の活動」です。

この前段に、「いまや科学者は、宇宙空間に生ける細胞が存在する事実を認めています・・友好的な異星人の見地からすれば、宇宙空間は生きた細胞の集合体である・・」と書いています。

これは、かなり進んだ言い方ですが、前段の文章は、恐らくアダムスキーと交流のあった科学者が、認めていた話ではないかと思われます。後段は、SPの解釈ですが、これが真実であると、近年になってやっと分かってきたようです。

南米チリのアルマ電波望遠鏡によれば、星の形成に際し炭素骨格などの有機分子が豊富でることが発見されています。これらは、酸素、窒素、水素との結びつきやアミノ酸との関係も期待されるということです。正に、私たちの科学も、かつて真実を知っていた科学者や、スペースビープルの科学に追いつきつつあるようです。

本論では、「人体は無数の細胞から成り立っており、各細胞は生命活動で特殊な使命をもって活動していますが、それは集団的に行われています。」と言っています。そして、この活動は、センスマインド（心）に依存していないと書いています。それで、心は逆に細胞から指示を仰ごうとしているということです。「だから心はこの地球のみならず宇宙空間の他の惑星などのあらゆる生命体と通信することが可能となるのです。」と教えます。

次に、1964年6月の「リーダーズダイジェスト」の記事として、“空間を越えて呼びかけては知識を交換し合う他の細胞の声”を紹介しています。これは今日、2017年10月～2018.3月まで放送された、「NHKスペシャル人体 神秘のネットワーク」で肯定されています。そこでは、「人体の真の姿は、巨大なネットワーク」と言っているからです。

### 宇宙に“生きる”

<名言格言編89>

“総好（そうす）かんを食う”

これは、みんなから嫌われ、相手にされなくなるということです。社会において、このようなことは、意外とあるのではないのでしょうか？ しかし、正論を言っているのに、このようになっているとすれば、場違いな発言であったにしても多少は考慮が必要でしょう。



Q：他の惑星は地球とかなり違う？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：確かにそのような映像が多いようです。地球のような豊かな自然は、人間の初期の段階に必要な惑星の特徴です。また、地球的な環境は、発見されても公表されないということもあるでしょう。実際には、他の惑星の多くで、人間生活に十分な資源はあると考えられます。

### 書物紹介

『東京に北斗七星の結界を張らせていただきました』 保江 邦夫 著 青林堂

著者は、物理学者にして伯家神道の継承者でもあります。大学教授であったとは思えないほど、不思議な体験をことごとく受け入れています。本書のタイトルのように、都内7か所の神社（線で結ぶと北斗七星になる）に、お神酒、水晶玉、麻紐を持参し巫女とともに奉納する神事を行って実行できたということです。文中に様々な不思議な話が出てきますが、信じがたいところもあります。しかし、昭和天皇がマッカーサーに頼んだ話は、ほぼ真実だと思います。

### 学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2022年1月8日（土）。2021年の予定は、今のところありません。今後、会場が空き次第、予定したいと思います。現在、会合に代わり、ZOOMでの学習会を開催しています。詳しくは、HPをご確認ください。

### 【編集後記】

今回は、オリ・パラリンピック鑑賞に時間が割かれ、思うように編集できませんでした。しかし、どうにかできました。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

### G・アダムスキー通信 <第89号>

発行日 令和3年 9月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡 邊 克 明 （禁無断転載）



# G・アダムスキー通信

**<発行の趣旨>** 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



## 冒頭語

人体は、新しい計算によると約37兆個の細胞からできています。それらによって形成される臓器は、それぞれが関連し合い、情報を交換しながら壮大なネットワークを形成しています。これは、ここ10年くらいで定着した考え方です。

アダムスキーは、このことを半世紀以上前に詳しく伝えていました。彼に言わせれば臓器間のやり取りは、細胞間のテレパシーに基づくものと説明するでしょう。

アダムスキーは、肉体内の宇宙的細胞が、宇宙の意識の声（想い）を語ると言っています。この細胞は、宇宙の意識とつながりながら、意識の声を代弁していると言った方が正確かもしれません。しかし、宇宙の意識をそのまま表現できるとすれば、“宇宙の意識の表れ”とも言え、結局、宇宙的細胞は、宇宙の意識そのものと言ってもよさそうです。

しかし、この臓器間のネットワークを内部から妨害するのは、人体の10%と言われる非宇宙的細胞（悪魔細胞）です。これは、視、聴、味、嗅の四つの感覚器官によって形成された心（エゴ）と結びついた細胞です。

非宇宙的細胞は、人間に不安、猜疑、嫉妬、焦り、攻撃性、怒りなどをあおり指示する部分で、この細胞の減少こそは、人体を持つ人間としての大きな役割の一つなのです。この辺のメカニズムの解明、人の役割についての探究は、21世紀最大の明るい希望であると思います。

現状で人間は、非宇宙的細胞の奴隷となり、その増殖に力を貸している状況です。自由を求めて叫び続ける人こそ、その細胞に縛られているようです。

一方、大多数が宇宙的細胞であることから人間は生き続けることができるわけです。そうです、宇宙的細胞という宇宙の意識が体内にあるわけですから、人は宇宙の意識と一体であるとも言えます。魂は、個性を持つ意識体で、テレパシー能力はありますが、肉体に入ると体内の細胞を通じて外部と交信を行うようです。この細胞を通して、同じ細胞を持つ異星人や宇宙内の万物と交信できるということです。これらは、夢のような情報です。皆さん深く理解し共に励みましょう。

## “言葉に注目”

### < 過去世の記憶はどのようにして起こるのか… >

G・アダムスキー著『UFOの真相』（中央アート出版社）

これは、アダムスキーに対する質問です。質問者は、催眠術に陥って行うのかと続けています。これに対してアダムスキーは、催眠術に関してははっきりと否定しています。そして、「自分の心、感覚器官などを静めて、内部の意識の声に耳を傾ければよい」と回答しています。そのためには、自分自身を訓練する必要性を述べて、「・・・自分の心を沈黙させることによって空白状態にし、無干渉の状態にする・・・」と、これは誰でもできると語ります。

そして、「心が如何に邪魔をするかという事実だ」と述べて、これによって疑問を起こすと、想念の流れを失ってしまうと言っています。通常の人には、常に心が騒がしく、不安や疑問を持つことから、それが邪魔となって意識からの声を聴くことができないということです。

## 「生命の科学」学習のポイントPart90

今回はレクチャー9『宇宙的細胞と肉体細胞の活動』の「死者の霊が語るのではない」です。

初めに、前回の後段にあった「細胞間の空間を越えた呼びかけ」により、心霊団体は死者からの声と勘違いしていると語ります。

そして、次のように解説します。「宇宙的な各細胞はそれぞれ周囲に、より小さな分子群を従えた一つの送受信機を持っています」。これこそは、地球上で誰も説明しなかった真理です。このことから、送受信細胞に接してメッセージを受け取ると、つまり、心が空白の時に閃きや過去を見えるなどの現象が起こると、それを高級霊からくると考えていたということです。

この送受信機は、細胞の数だけあるということや、細胞を女王蜂とそれを取り巻く働き蜂に例えています。そして、次のように語ります。「この送受信局は、あらゆる生命の内部ですべての宇宙的な活動を指令する宇宙的な細胞です」。それらを「至上なる英知」、万物の「父」と呼んでよいと言っています。つまり、私たちの体内には、万物の父がいるということになります。

次に、「この細胞を形成する数百の働きバチ（より小さい分子）は宇宙の原理においてひとしいのであって、中心の局の指令に従っています」。としています。やや分かりにくいのですが、働きバチは宇宙の原理そのもので、中心の局の指示に従っているということです。

このことから、「心がみずから宇宙的な秩序ある印象にゆだねるならば、心にとって分子群（働きバチ）から印象を感受することが容易となります」。と言っています。

結局、原理が分かることで、イメージしやすくなるものの送受信局の働きバチと触れる方法、あるいは、触れた時に「これがそうだ」と分からない。常に、ここが問題なのです。この解決には、心静かに自己を見つめる訓練、自己の細胞に問いかける訓練が必要なのです。

### 宇宙に“生きる”

＜名言格言編90＞

“習うより慣れろ”

物事はなんでも、知識として教わり習うよりも、体で慣れるようにした方がよい。難しい理論よりも実際の体験の方が身につくものだという教えです。昔は、良くこのように言われたものです。確かに、そのような分野は、今でも沢山あることでしょう。生命の科学も同じか？



Q：アダムスキーは他の惑星の写真を持っていた？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：そのように伝えられています。彼は、母船に乗船する際も、他の惑星へ行く際も、常にカメラを携帯していたようです。良く写らないこともありましたが、SPから、サポートがあったように思います。これらの写真は、どこに隠しておいたのか、今となってはわかりません。

### 書物紹介

『後藤新平の台湾』 渡辺 利夫 著 中公選書

台湾と日本との関係は、あまり知られていないようです。台湾は、日清戦争の勝利によって清国から割譲され、日本が領有することになったものです。しかし、当時の台湾は、清国から見放された状態で、社会統合がされず、アヘンにより犯され、マラリア、ペスト、コレラなどがはびこるところでした。そこに赴任した後藤新平が、日本の膨大な予算を獲得して、鉄道を引くなど交通、経済、平穏な社会の確立などに尽力した実態がわかる書物です。

### 学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2022年1月8日（土）または3月12日（土）のどちらか開催予定。2021年の予定は、今のところありません。現在、会合に代わり、ZOOMでの学習会を開催しています。詳しくは、HPをご確認ください。

### 【編集後記】

やや厳しかったものの、無事に編集することができました。社会生活は、少しずつ落ち着きを取り戻しているようです。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

### G・アダムスキー通信 <第90号>

発行日 令和3年 11月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡辺 克明 （禁無断転載）